

7月について シッダ・ヨーガの道のウェブサイトより イーシャ・サーデサイ

シッダ・ヨーガの道では、7月は通常グルプールニマーの祝祭と関連付けられています。「通常」と言う理由は、グルプールニマーは太陰暦の祝祭日であり、インド暦のアーシャーダ月の満月の日に祝われ、多くの場合、西洋暦では7月にあたることが多いからです。今年、2026年のグルプールニマーは7月29日です。

インドの文化に深く根差すグルプールニマーのお祝いがどのように始まったかという話は、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトで読むことができます。ここでは簡単に概要をお話しします。グルプールニマーは、数千年前に偉大な賢人ヴェーダ・ヴィヤーサの弟子たちによって始められたお祝いです。弟子たちはグルに、敬意を表したい、深い感謝の気持ちを表したいという願いを伝えました。賢人は弟子たちへの慈悲の心から、一年のうちの一日をその目的のためにささげてもよいと告げました。弟子たちはすぐにアーシャーダ月の満月の日を選びました。この日はグルプールニマー、すなわち「グルの満月」として知られるようになりました。

シッダ・ヨーギや新たな探究者にとって、グルプールニマー——その当日、そして実際には、その日のある月のすべて——は、シッダ・ヨーガの系譜におけるグル、すなわちグルマーイ・チッドヴィラーサーナンダ、バーバ・ムクターナンダ、そしてバガヴァーン・ニッティヤーナンダに敬意を表す時です。グルに「どのように」敬意を表すことができるかをより深く理解するには、これまでと同様、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトを参照することができます。

まず手始めに（と言っても、実際のところ、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトのホームページの「どこを」クリックしても「良い出発点」と言えるでしょうが）、リーラーヴァティー・スチュワート・サトクリフからのグルプールニマー・ダクシナーをささげることへの招待状から始めるのがよいでしょう。シッダ・ヨーガの祝祭日を祝う際には、さまざまな修行から選ぶことができますが——そしてそれこそが、私にとって、祝祭日を楽しく、喜びに満ちたものに行っている要素の一つなのですが——特定の祝祭日には、特に力を入れる修行があることもあります。グルプールニマーの場合、それはダクシナーをささげることです。（ダクシナーについてもっと詳しく知りたい方、あるいはこの修行についての理解を新たにしたい方は、ウェブサイトに掲載されている参考となる

資料を参照してください。例えば、シッダ・ヨーガの学者による解説や、シッダ・ヨーガのスワミとのダクシナーについての一問一答などがあります)

そこから、「シュリー・グルへの崇敬」へと焦点を移していくことができるでしょう。さて、まず言っておきたいのですが、ウェブサイトに掲載されるこの新しい言葉のコレクションについてお伝えできることをずっと「心待ちに」していました。ついにその時が来たことをとても嬉しく思います！

その話とはこうです。数週間前、グループルニマーの月を前に、私はセーヴァーの仲間数人と会いました。私たちは皆、言葉が好きで、仲間はサンスクリット語などのインドの言語の学者です。グルマーイへのささげ物として、私たちはグルに関連するサンスクリット語の言葉とそれに対応する英語訳を集めたコレクションを作成することにしました。これらの言葉の多くはインドの教典から来ています。それらの言葉の中には、グルの性質や、グルの特定の側面を説明するものがあります。グルが弟子に授けるものを詳しく説明するものもあります。また、弟子がグルに対して抱く態度、弟子が取る行動、弟子が参加する修行を説明するものもあります。

私はこれまで何度も見てきましたが、誰かがグルマーイに贈り物をすると、彼女は その贈り物をシッダ・ヨーガ・サンガムとどのように分かち合えるかを考えます。私は約 10 年前にシッダ・ヨーガの道のウェブサイトのために文章を書き始めましたが、以前そのきっかけをお話したことを覚えているかもしれません。それまで、私はグルマーイにサーダナーに関する自分の体験や気づきを手紙で書いていましたが、私の考えを皆さんと分かち合うように彼女が勧めてくれたのです！

さて、グループルニマーの話に戻りますが、グルマーイは私と仲間が用意したサンスクリット語の言葉を受け取った際、私たちの努力をとても丁重に認め、私たちが選んだそれぞれの言葉が、グル、弟子、そしてグルと弟子の関係について示す深い意味と重要性を持っていると述べました。そしてグルマーイは、すべてのシッダ・ヨーギと新たな探究者がこれらの言葉について学ぶことができれば、どれほど有益であるかについて語りました。そこで、7月を通して、これらの言葉から毎日一つをシッダ・ヨーガの道のウェブサイトで紹介することになったのです。

やがて明らかになりますが、すべての言葉は「グル」(より正確には、敬称の「シュリー」を含めて「シュリー・グル」)で始まります。これらの言葉は複合語、つまり、独立した単語が組み合わさってできており、各複合語の最初の単語はグルを指しています。仲間と私がこのコレクションに取り組んでいた時、グルマーイとバーバ・ムクターナンダがサツァングで語った象徴的な比喻

を思い出しました。グルマーイとバーバは、人の人生におけるすべてのものは「ゼロ」と考えることができると説明しました。人は多くのものを持っているかもしれませんが、それは単に多くのゼロを蓄積しているに過ぎないのです！しかし、グルに出会い、大いなる自己の知識に目覚めると、それはすべてのゼロの前に「1」という数字を置くようなものです。ゼロは真の、より大きな価値を獲得するのです。

以上は、グルプールニマーのこの月にシッダ・ヨーガの道のウェブサイトで見ることができる内容の簡単な概要——ほんの2, 3の特集——です。正直なところ、学びのために用意された数多くの資料——教え、エッセイ、物語、賛歌、写真など、さまざまなもの——について、私はそのごく一部に触れたに過ぎません。7月中は、グルプールニマーの祝祭のために特別に厳選されたページをクリックして、これらの資料をぜひご自身で探索してみてください。

そうする利点は多岐にわたります。それらを列挙するだけでも一つのエッセイを書けるほどです！とは言え、ここでは改めて、幾つかの特集に焦点を当てます。私は、シッダ・ヨーガの道のウェブサイトで教えに積極的に取り組むことは、グル・シシャ・パラムパラ — すなわち、太古の昔から受け継がれてきたグルと弟子の伝統——に参加する一つの方法と捉えています。この伝統の継承は、グルが弟子に知識を授けることと、弟子がその知識を受け入れ実践することにかかっています。毎日グルマーイは、ウェブサイトを通じて教えを授けています。そして毎日、私たちはそれらの教えを学び、練習し、吸収し、生活の中で実行することができます。そうする時、私たちはグルの弟子、そして生徒としての責任を果たすことになります。私たちはグルの英知、グルの光が私たちの世界に広がるように努めているのです。

また、私自身のウェブサイトの学び——そして、それに伴うグルと弟子の関係についての知識と体験の深化——が、シッダ・ヨーガの道のもう一つの重要な修行を支えてくれると感じています。それはダルシャンです。

グルのダルシャンを受けることは、私が毎日行っている修行です。人生の今この時期に、グルが住む場所で生活し、セーヴァーをささげる機会があることに感謝しています。グルマーイの肉体の姿によるダルシャンを受けることは、私にとって何よりも重要なことです——「同時に」、グルのダルシャンは実に多様な形で受け取ることができるという、グルマーイが示した教えにも心を留めています。

ダルシヤンの体験は内側で起こるものです。多くのシッダ・ヨーギや新しい探究者がグルのまなざしを思い出す時——グルが私たちを見る時の、そのまなざしのあり方を心に思い描き感じる時——に、彼らがダルシヤンを体験していることを私は知っています。彼らは自らの魂の沈黙と同義であるグルの沈黙に沈み込む時、あるいはグルの英知を呼び起こす時に、ダルシヤンを体験します。彼らは目の前にグルを思い描く時——心の中で、かすかでありながらはっきりと感じ取れるグルの存在とつながる時——にダルシヤンを体験します。グルマーイは、「ダルシヤンの修行はそれ自体が教典である」と言っています。

グループルニマーの1カ月にわたる祝祭の幕開けを迎えている今、締めくくりとして——あるいはまさにここから始まるので、始まりとして——「シュリー・グル・ギター」の一節を引用したいと思います。この一節を選んだのは、私がここで述べてきた内容にふさわしいと感じたからです。

この節では、シヴァ神——アーディ・グル、つまり原初のグル——が女神パールヴァティーにこう語ります。

mantrarājam idaṁ devi gurur ityakṣaradvayam |
smṛtivedārthavākyena guruḥ sākṣāt param padam ||

2 文字(グとル)から成るこのグルという単語は、
最も偉大なマントラである。
ヴェーダとスムルティの言によると、
グルは最高の現実そのものである。¹

© 2026 SYDA Foundation®. 著作権所有。

¹ 「シュリー・グル・ギター」第107節; in *The Nectar of Chanting*, 4th ed., 2017 reprint (S. Fallsburg, NY: SYDA Foundation, 1984), p. 36; English rendering © 2026 SYDA Foundation®.